

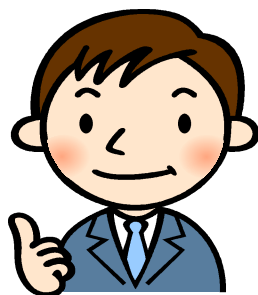
「頑張る学校応援プラン」

～ふくしまの挑戦と戦略～

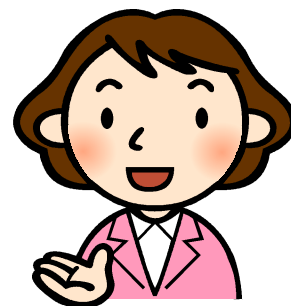
令和3年度 授業改善グランドデザイン

全国学力・学習状況調査の結果分析と学力向上の方策

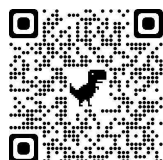
- 1 全国学力・学習状況調査の結果の概要 P1
- 2 各質問紙の結果に見るふくしまの強みと課題 P4
- 3 各教科の分析及びふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業 P7
- 4 ふくしまの強みを生かし、課題の克服を目指して！ P11
- 5 各調査の特色に応じて～「ふくしま学力調査」との整理～ P12



令和3年8月
福島県教育庁義務教育課



©すべてのデータを、福島県教育庁義務教育課WEBサイトからPDFでダウンロードいただけます。



<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a>

または

福島県教育庁義務教育課

検索

1 全国学力・学習状況調査の結果の概要

調査に関する概要

実施日	令和3年5月27日(木)	
実施校数	小学校 406校	中学校 217校
調査学年	小学校 6年生	中学校 3年生
調査教科	小学校 国語、算数	中学校 国語、数学

- ※ 実施校数は、5月27日に調査を実施した数である。
- ※ 義務教育学校（前期課程・後期課程）及び特別支援学校（小学部、中学部）を含む。

校種・教科に関する調査結果の概要

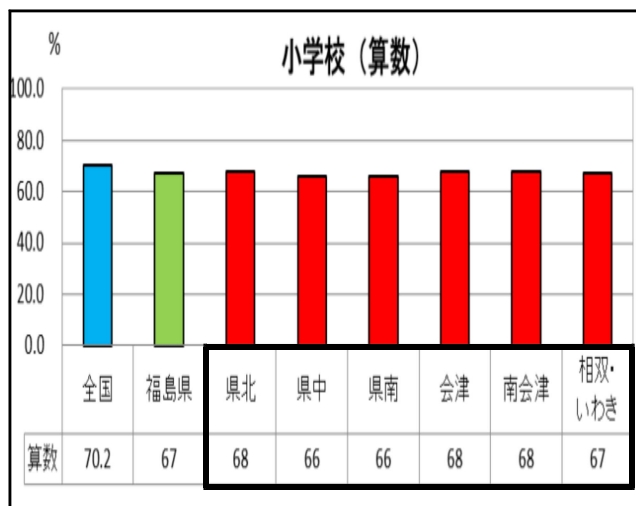
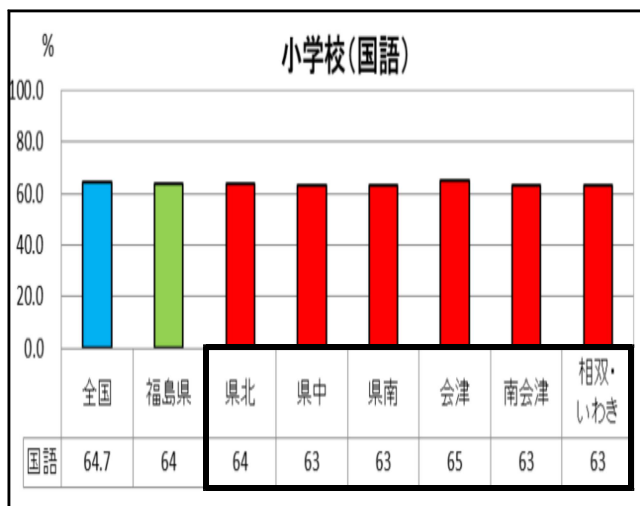
小学校	福島県集計対象児童数	福島県(公立)平均正答率	全国(公立)平均正答率	所見
国語	13,919	64	64.7	おおむね全国平均
算数	13,919	67	70.2	全国平均を下回っている

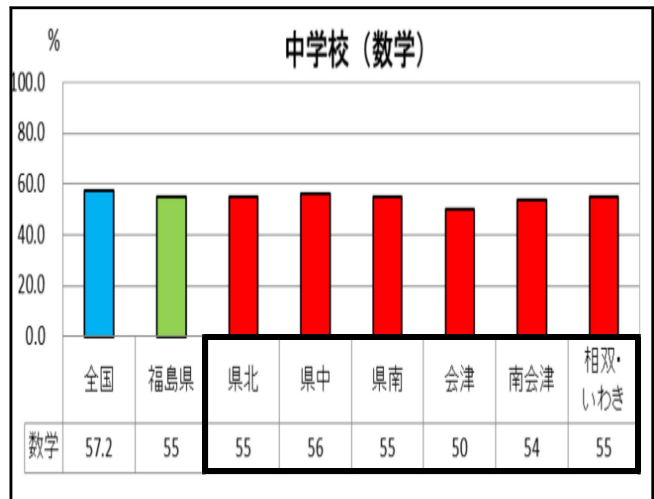
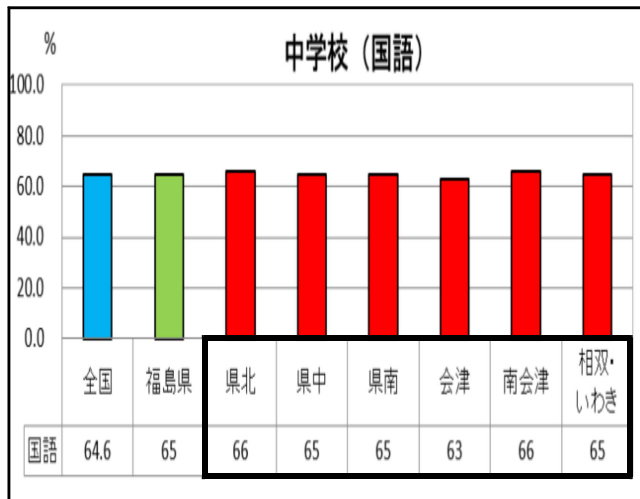
中学校	福島県集計対象生徒数	福島県(公立)平均正答率	全国(公立)平均正答率	所見
国語	14,280	65	64.6	おおむね全国平均
数学	14,280	55	57.2	全国平均を下回っている

- ※ 児童生徒数は、5月27日に調査を実施した数である。
- ※ 国の公表方針及び提供資料に基づき、県の数値については整数値による公表である。

生活圏平均正答率の状況

- 県内の生活圏別（県北、県中、県南、会津、南会津、相双・いわきの6地域）平均正答率において、校種・教科ごとの大きなばらつきは見られない。
- それぞれの地域の成果と課題を詳細に分析するとともに、児童生徒一人一人の学びに応じた、指導の個別化を図る授業改善等の具体的な取組を強化していく必要がある。





児童生徒質問紙調査の結果

全国平均及び福島県における経年推移を比べると、福島県の児童生徒には次のような特長が見られる。

- 国語、算数・数学ともに、授業が分かると回答している児童生徒の割合が高い。また、経年推移においても増加傾向が見られる。
- 自分で計画を立てて家庭学習に取り組む児童生徒の割合が高く、全国平均を上回っている。
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考える児童生徒の割合が高く、全国平均を上回っている。
- 自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表している児童生徒の割合は、小・中学校で少しずつ差が縮まっているが、中学校は全国平均を下回っており、課題となっている。

調査結果の総括(公立)

- 本年度の全国学力・学習状況調査における結果は、小学校国語及び中学校国語がおおむね全国平均となっている。しかし、小学校算数及び中学校数学は、特に自分の言葉で説明する記述式の問題に課題があることなどから、全国平均を下回る厳しい状況が続いている。
- 無解答率はおおむね全国平均より低くなっており、前回調査から改善が見られる。
- 質問紙調査から、本県の児童生徒はコロナ禍において学習に不安を抱えながらも、計画的に家庭学習に取り組んでおり、これまで同様に全国平均より望ましい傾向にある。一方、テレビゲーム等をする時間は大幅に増えており、課題となっている。
- 各学校においては、ふくしま学力調査の結果と合わせ、自校の結果及び児童生徒一人一人の解答状況や生活習慣等の実態を多面的に分析し、校長の強いリーダーシップのもと、それらを全職員で確実に共有することが重要である。
- 特に思考力・判断力・表現力等の確実な育成に向け、教科や学年・校種を越えて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に全校体制で取り組んでいくことが大切である。

◎県教育委員会としても、ふくしま学力調査の結果と合わせ、今回の結果を詳細に分析し、早急に対応策を示し、本県の未来を担う児童生徒の学力向上に取り組んでいく。

新型コロナウイルス感染症の影響について

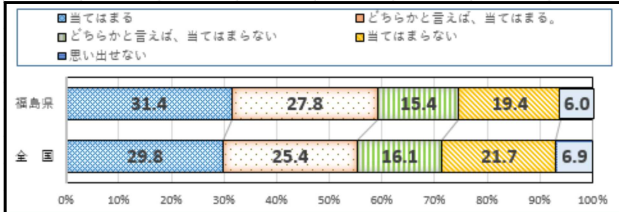
(新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期)

令和2年4～5月頃の状況

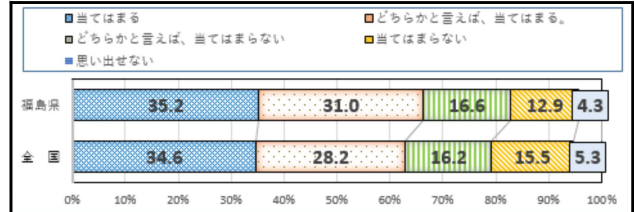
[児童生徒質問紙]

新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか

【小学校】

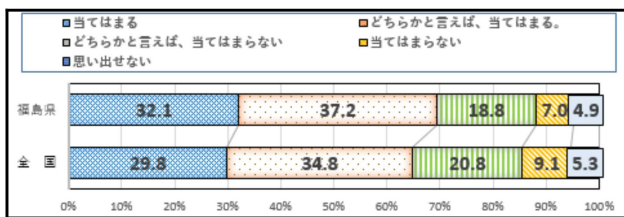


【中学校】

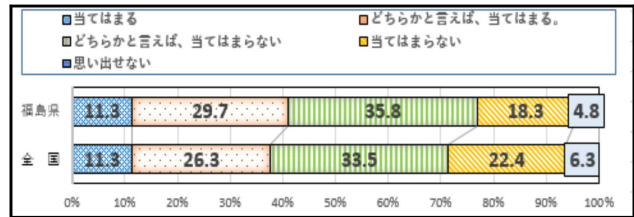


新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか

【小学校】



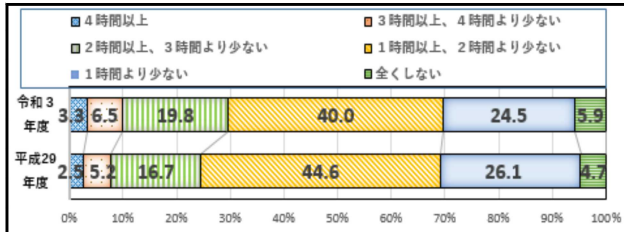
【中学校】



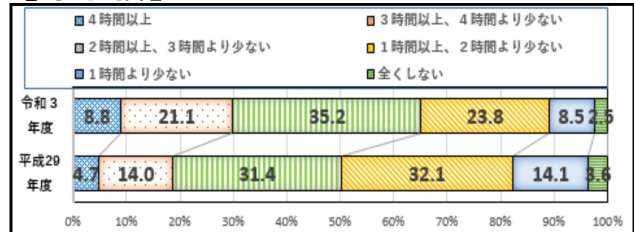
現 状

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

【小学校】

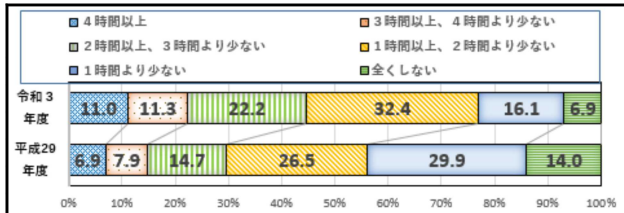


【中学校】

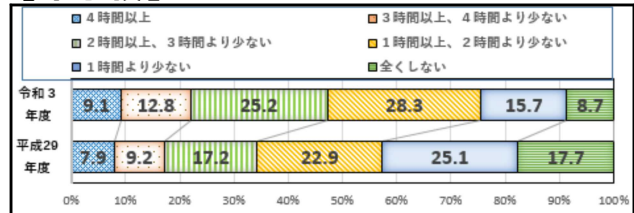


普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか

【小学校】



【中学校】



休校中に「勉強について不安を感じた」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い傾向にあった。休校中に「計画的に学習を続けることができた・どちらかと言えばできた」と回答した割合は、小学校で69.3% (全国比+4.7ポイント)、中学校で41.0% (全国比+3.4ポイント)であり、コロナ禍で学習に不安を抱えながらも計画的に学習に取り組んでいたことが分かる。

こうした休校中の過ごし方も含め、家庭学習の習慣は着実に身に付いてきており、休日の学習時間が2時間以上の児童生徒の割合は、平成29年度調査よりも増えている。一方で、平日にテレビゲーム等をする時間が1時間以上の児童生徒の割合は、平成29年度調査よりも著しく増えており、課題となっている。

2 各質問紙の結果に見るふくしまの強みと課題

ふくしまの強み(よさ)



授業の内容が分かる、計画を立てて家庭学習に取り組む児童生徒が増えてきています。また、地域に根差した教育が進められています。

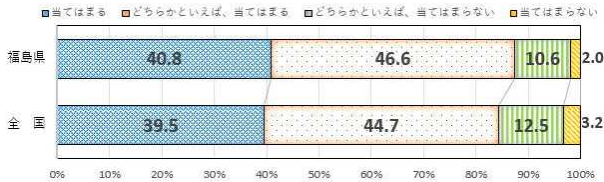


「授業の内容はよく分かる」と回答する子どもが年々増加傾向にあります

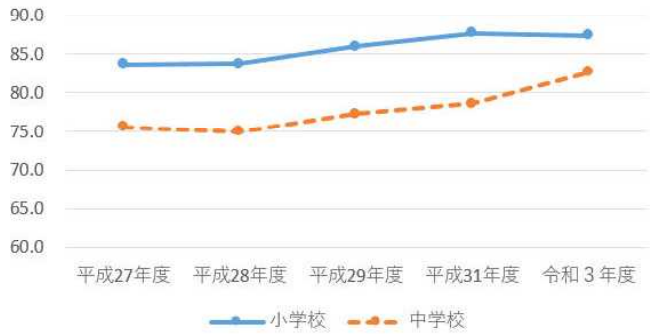
国語の授業の内容はよく分かりますか

[児童生徒質問紙]

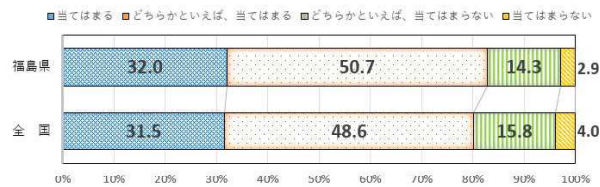
【小学校】



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の推移



【中学校】

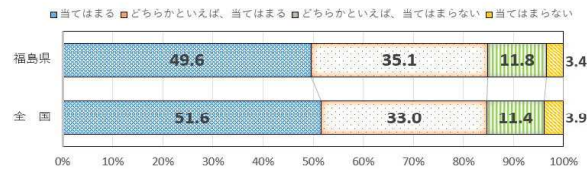


※平成30年度調査において該当項目なし

算数・数学の授業の内容はよく分かりますか

[児童生徒質問紙]

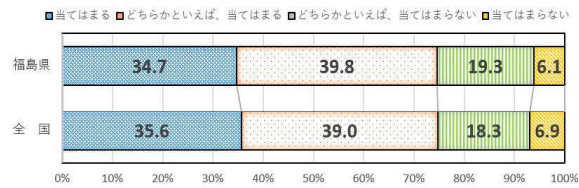
【小学校】



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の推移



【中学校】



【小学校】

近隣等の小学校(中学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか

[学校質問紙]

【中学校】



- 国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生は87.4% (全国比+3.2ポイント)、中学生は82.7%(全国比+2.6ポイント)と、ともに全国平均を上回っている。また、福島県における経年推移で見ると、増加傾向にある。
- 算数・数学の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生は84.7% (全国比+0.1ポイント)、中学生は74.5% (全国比-0.1ポイント)と、ともにおおむね全国平均である。また、福島県における経年推移で見ると、増加傾向にある。しかし、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国平均よりも低い傾向が見られることは、課題ともいえる。
- 全国学力・学習状況調査の結果について、近隣等の学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行っている学校の割合は、小学校は71.2% (全国比+13.8ポイント)、中学校は77.9% (全国比+12.8ポイント)と、ともに全国平均を上回っている。

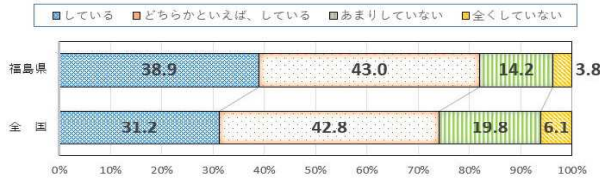


学習方法を理解し、計画を立てて家庭学習に取り組む姿勢が育っています

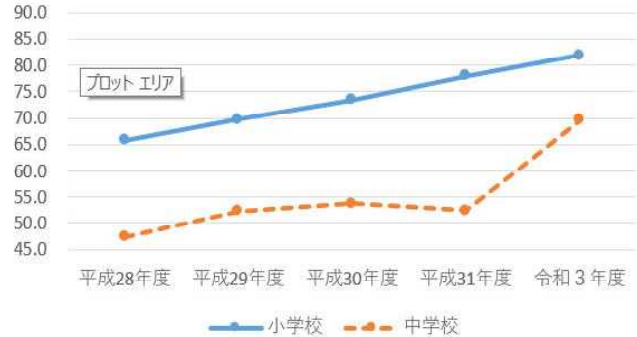
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

[児童生徒質問紙]

【小学校】



「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合の推移



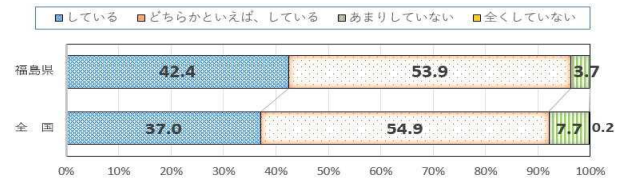
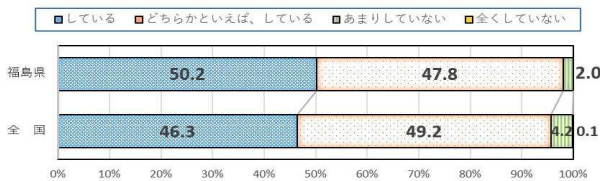
【中学校】



家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか

[学校質問紙]

【小学校】



○自分で計画を立てて家庭学習に取り組む児童生徒の割合は、小学生は81.9%（全国比+7.9ポイント）、中学生も69.6%（全国比+6.1ポイント）と、ともに全国平均を上回っている。また、福島県における経年推移で見ると、5年前に比べて、小学生は+16.1ポイント、中学生は+22.3ポイントと、増加傾向にある。

○児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている学校の割合は、小学校は98.0%（全国比+2.5ポイント）、中学校は96.3%（全国比+4.4ポイント）と、ともに全国平均を上回っている。

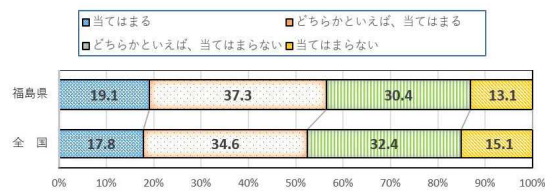


地域に根差した教育が進められています

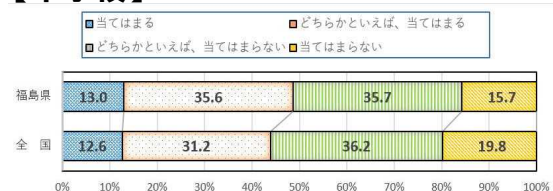
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

[児童生徒質問紙]

【小学校】



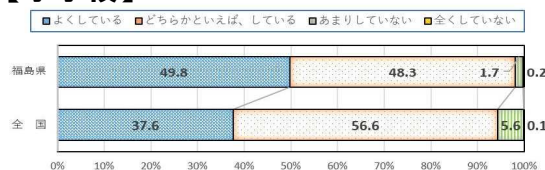
【中学校】



指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

[学校質問紙]

【小学校】



【中学校】

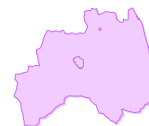


○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている児童生徒の割合は、小学生は56.4%（全国比+4.0ポイント）、中学生は48.6%（全国比+4.8ポイント）と、ともに全国平均を上回っている。

○地域等の外部の資源を含めて活用しながら指導計画を作成している学校の割合は、小学校は98.1%（全国比+3.9ポイント）、中学校は88.9%（全国比+4.3ポイント）と、ともに全国平均を上回っている。

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、3つの資質・能力のうち、特に「思考力、判断力、表現力等」の育成に努めます。

ふくしまの課題



ICTを効果的に活用するなどして、「思考力、判断力、表現力等」の育成を意識的に進める必要があります

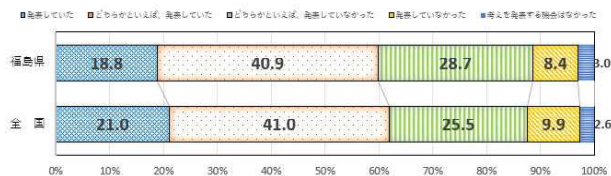
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか

[児童生徒質問紙]

【小学校】



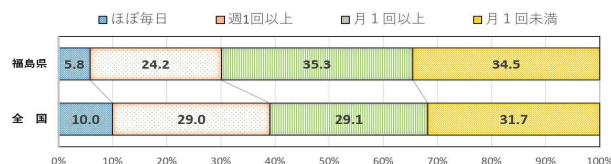
【中学校】



学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか

[児童生徒質問紙]

【小学校】



【中学校】



各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

[学校質問紙]

【小学校】



【中学校】



「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合の推移



- 自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表しているかをたずねる質問で、小学生の65.7% (全国比+2.2ポイント)、中学生の59.7% (全国比-2.3ポイント)が肯定的な回答をしている。
- 学校で、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、ICT機器を「ほぼ毎日」または「週1回以上」使用していると回答している割合は、小学生の30.0% (全国比-9.0ポイント)、中学生の25.4% (全国比-9.4ポイント)と低く、課題となっている。
- 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、小学校は79.8% (全国比-1.6ポイント)と全国平均をやや下回っており、中学校は71.9% (全国比-0.7ポイント)とおおむね全国平均である。福島県における経年推移で見ると、小学校及び中学校ともに平成30年度を境に数値が減少傾向にあり、大きな課題となっている。

今後に向けたPoint!

- 近隣等の学校と授業研究を積極的に行うことで、小・中の接続を意識した授業改善が進められており、それが児童生徒が感じる「よく分かる授業」に結びついていると考えられます。小・中学校の学習内容の系統性に留意しながら、各教科の「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を育成していきましょう。
- 家庭や地域と連携しながら児童生徒の学習活動を支える姿、児童生徒が自ら計画を立てて家庭学習に取り組む姿が増えてきました。ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用し、児童生徒が学習内容や方法を見直したり、振り返ったりするなどの取組を進めることで、自己マネジメント力の育成につなげましょう。
- 各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすため、学びの連続性や知識のつながりを意識しながら学習を進めることが大切です。ICTを効果的に活用するなどして、特に「思考力、判断力、表現力等」の育成を意識的に進めましょう。

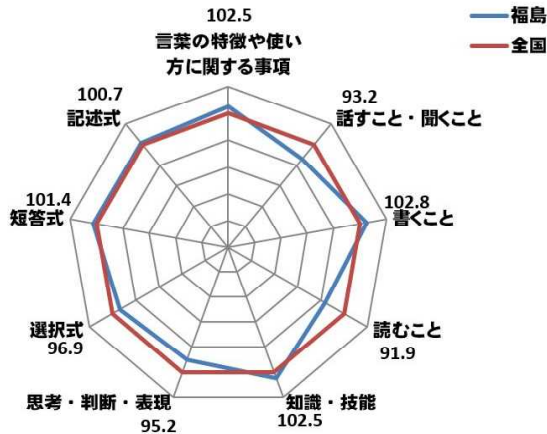


3 各教科の分析及びふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業

小学校国語

※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

領域・観点・問題形式別の状況



傾向と課題

- 平均正答率は、おおむね全国平均である。
- 前回調査で、全国平均を下回っていた「書くこと」領域の平均正答率は、全国平均をやや上回っている。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、全国平均をやや上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」領域の平均正答率は、全ての設問において全国平均を下回っている。
- 問題形式別で見ると、「短答式」において全国平均をやや上回っている。一方で「選択式」においては全国平均を下回っている。
- 全ての設問において、無解答率が全国平均を下回っている。

課題が見られた設問

- 1 「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」
- 2 「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」
- 4 「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」

力を入れたい学習

- 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること
- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎〔国語2〕 説明的な文章を読み、分かったことをまとめる（「面ファスナー」）
設問一「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄（要旨）を把握する」の誤答分析をすると、以下の点に課題があることが見えてきます。

《誤答分析から》

- ・ 選択肢2、3と解答した児童の合計は21.1%であり、【資料】の文章が何について書かれているかを捉えることができなかつたと考えられます。
- ・ 選択肢3と解答した児童は11.6%であり、どのように書かれているかも捉えることができなかつた児童もいたと考えられます。

文章を部分的に取り上げて書かれている内容を詳しく読むだけでなく、文章全体の構成を捉えながら読むことが大切です。例えば、文末表現に着目して事実と感想、意見などとの関係を押さえながら読むことなどが考えられます。



《授業スタンダードより》

○「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にする

授業では、学習課題の把握の場面において教師から課題を提示する場合でも、学習課題を自分のものとして捉えられるようにすることが大切です。

<学習課題の条件>

- 子どもの実態に即している。
- 子どもにとって身近で分かりやすい表現になっている。
- 学習への興味・関心を高めることができる。
- 適度な難易度で、解決への見通しをもつことができる。
- 多様な捉え方や解法などを引き出すことができる。
- 子どもにとって追究・解決する価値がある。

《授業改善のポイント》

要旨を捉えることの必要性を感じられるように、活動の目的や価値を明確にしておく。例えば、複数の文章を読む活動を取り入れることで、必要感をもって文章全体の構成を捉えたり、要旨を把握したりすることができるように指導する。

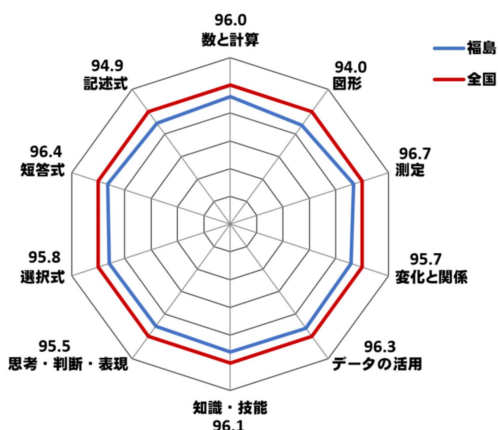
1 面ファスナーの開発と広がりについて、時間の経過によって書かれている。
2 面ファスナーの長所と短所について、それぞれの事例が交互に書かれている。
3 面ファスナーの長所と短所について、一つの事例が取り上げられて書かれている。
4 面ファスナーの開発と広がりについて、筆者の問いとその答えがくり返し書かれている。

「相川さんが読んだ『資料』の文章は、何について、どのように書かれていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。」

小学校算数

※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

領域・観点・問題形式別の状況



傾向と課題

- 平均正答率は、全国平均を下回っている。
- 領域別においては、特に「図形」で全国との平均正答率の差が大きい。
- 「知識・技能」の観点を平均正答率が、全国平均を下回っている。基本図形の面積の求め方について理解していないため、誤答となる傾向が見られる。
- 問題形式別で見ると、「記述式」において全国平均を下回っている。「記述式」では、問われていることに対して答えるように記述できていないため誤答となる傾向が見られる。
- 全ての設問において、無解答率が全国平均を下回っている。

課題が見られた設問

- 1(3)「速さを求める除法の式と商の意味を理解する」
- 2(1)「三角形の面積の求め方について理解する」
- 3(4)「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する」
- 3(5)「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断する」

力を入れたい学習

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさの意味及び表し方を理解し、単位量当たりの大きさをを用いて比べること
- 観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素などに着目して捉え、図形の計量について筋道を立てて説明すること
- 統計的に問題解決するために、集めるべきデータを判断したり、データを分類整理したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりすること

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎〔算数3〕統計的な問題解決の方法を用いた考察（図書アンケート）



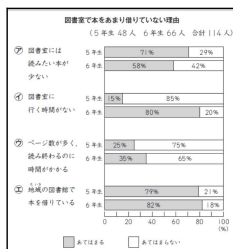
5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらいの項目があります。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくちがう項目もありますね。

左のグラフについて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。

項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。



- ・「① 図書館に行く時間がない」を表す言葉や記号を書いているが、「5年生と6年生の『あてはまる』と答えた人の割合を表す数」を書いていない児童の割合11.5%
- ・「④ 地域の図書館で本を借りている」の項目を表す言葉や記号を書いている児童の割合15.7%



展開

子ども一人一人の学びを見取って適切に支援し、学習課題の解決につなげます。



「見方・考え方」に基づく「学級全体での話し合い」

- 全体での話し合いでは、次のようなことが期待できます。
 - ・ 友達の考えを理解しようと、興味をもって聞く。
 - ・ 自分の考えを説明したり、主張したりする。
 - ・ 友達の考えに質問したり、反論したりする。
- 子どもたちが働かせた「見方・考え方」を見逃すことなく注意深く見取り、称賛したり広めたりして、「深い学び」を実現します。

集めたデータを表などに整理した上で、集めたデータに対して、目的やデータの種類に応じてグラフにまとめる

特徴や傾向を把握し、見いだした特徴や傾向から問題に対する結論をまとめて表現する



問題解決の過程や結論について誤りや矛盾はないかどうか妥当性について批判的に考察し、伝える機会を設定しましょう。

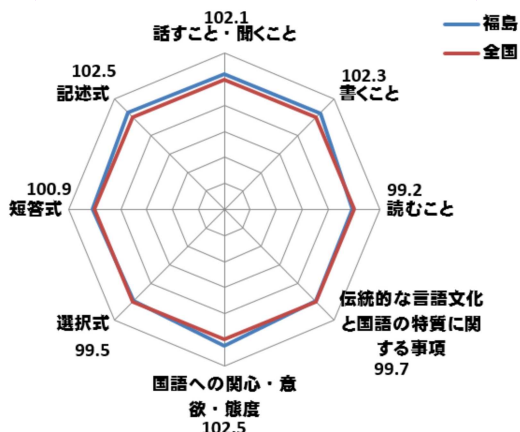
〈授業改善のポイント〉

- 目的に応じてデータを集めて分類整理し、適切なグラフに表したり、代表値などを求めたりすること。
- データのもつ特徴や傾向を把握し、問題に対して自分なりの結論を出したり、その結論の妥当性について批判的に考察したりすること。

中学校国語

※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

領域・観点・問題形式別の状況



傾向と課題

- 平均正答率は、おおむね全国平均である。
- 前回調査で、全国平均を下回っていた「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率が、全国平均を上回っている。
- 「読むこと」領域においては、おおむね全国平均である。しかし、他領域と比べると「読むこと」領域は低い。
- 「書くこと」領域においては、全国平均を上回っている。
- 問題形式別で見ると、「記述式」において全国平均を上回っている。
- 一つの設問を除き、無解答率が全国平均を下回っている。

課題が見られた設問

- 2- 「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」
- 3- 「文脈の中における語句の意味を理解する」
- 3四 「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」

力を入れたい学習

- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読み手の立場に立った読みやすく分かりやすい文章にすること
- 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉えること
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くすること

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎〔国語3〕 文学的な文章を読む（「吾輩は猫である」）

設問四「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」の誤答分析をすると、以下の点に課題があることが見えてきます。

《誤答分析から》

【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用するという条件を満たしていない生徒は45.3%であり、文章の中から適切に引用することができていないと考えられます。



話し合いをコーディネートする中で考えの根拠を問い返すだけでなく、自分の考えをノートに書く際にも引用の仕方とともに、根拠を示すように指導します。

《授業スタンダードより》

文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりする場の設定が大切です。

○ 友達との交流を通して、考えを共有・吟味させましょう。

- ・ 考えを共有したり比較・検討したりする場の設定
- ・ 理由や根拠を基に判断する場の設定
- ・ 目的に応じたグループ編成
- ・ 活動にふさわしい人数設定 など

四 「紹介」に「線部」様々に評価する」とありますが、「文章の一部」では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接方をしていきますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「文章の一部」から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていくことが分かるのかを書くこと。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

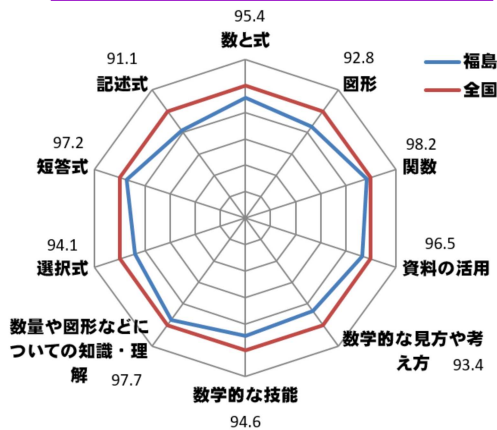
〈授業改善のポイント〉

- 第1学年〔知識及び技能〕(2)「イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。」等と関連付けて指導する。
- 「確かな考え」にするために、理由や根拠を基に判断する場を設定する。

中学校数学

※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の本県の平均正答率の割合を示している。

領域・観点・問題形式別の状況



傾向と課題

- 平均正答率は、全国平均を下回っている。
- 領域別においては、「図形」で全国との平均正答率の差が大きい。
- 「関数」領域の平均正答率は前回調査より伸び、全国平均に近づいている。
- 「数学的な技能」の観点の平均正答率は、全国平均を下回っている。
- 問題形式別で見ると、「記述式」において全国平均を下回っている。事柄が成り立つ理由を説明する問題に課題が見られる。

力を入れたい学習

- データの活用においては、目的を明確しながら得られたデータの傾向を的確に読み取ること
- 事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立て根拠を明確にして説明できるようにすること
- 図形の性質を考察する場面において、事象の特徴を的確に捉えたり、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考え、数学的に表現すること

課題が見られた設問

- 5 「与えられたデータから中央値を求める」
- 6(2) 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」
- 8(3) 「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」
- 9(1) 「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明する」

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎ 「数学6」 構想を立てて説明し、発展的に考察すること（4つの数の和）

6 自然数を5つずつに区切った表があります。この表で、縦に2つ、横に2つの数が入る四角で4つの数を囲みます。例えば、右の図1のように四角で4つの数を囲むとき、左上の数は3、右上の数は4、左下の数は8、右下の数は9になります。

図1

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15

- (2) 「四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になる」という優太さんの予想が成り立つことの説明を完成しなさい。

・ $4(n+3)$ と記述しているが、「 $n+3$ は整数」と記述していない生徒が14.9%
 ・ $4n+12$ と記述している生徒が8.7%

4×(整数)の形にすればよいと見通しをもって、変形する場面を設定する

一人一人が見通しをもてたか見取ることが必要



授業スタンダード(計画・方向付け・見通し)より

<計画・方向付け・見通し>

追究・解決への手掛かりを見つけさせるために

- 子ども一人一人が計画や見通しをもてたか見取りましょう。
 - ・ 一人一人の発言やノートの記述内容、聞き取り
 - ・ ペアやグループでの話し合いの様子 など
- 困っている子どもに寄り添い、全員が「追究・解決したい」という思いをもてるよう支援しましょう。

事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるようにすることが大切です！

さらに、
 「6つずつ区切った表ではどうかな？」
 「ほかの形で困ったらどうかな？」など、
 問題の条件や仮定を見直すことを通して統合的・発展的に考察することができるようにすることが大切です。

<授業改善のポイント>

見いだした数や図形の性質などを表したり、その妥当性などについて根拠を明らかにして説明したり、数学を活用する手順を順序よく説明したりする場面では、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現することが重要です。

4 ふくしまの強みを生かし、課題の克服を目指して!



「頑張る学校応援プラン」～ふくしまの挑戦と戦略～
『学力向上に責任を果たす』3つのポイント



【ポイント1】 各種学力調査等の結果分析により、個別最適な学びを実現する

学力の伸びを把握できる「ふくしま学力調査」の結果等と合わせて詳細な分析をすることで、児童生徒一人一人や自校の課題を明らかにし、個別最適な学びの実現を目指していきましょう。また、各地区や域内において、成果や課題を共有して、実態に応じた具体的な対策を講じていくことが必要です。

【ポイント2】 「主体的・対話的で深い学び」により、思考力・判断力・表現力等を育む

ふくしまの「授業スタンダード」を有効に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善が図られてきています。今後さらに、次のポイントを大切に授業改善を進めましょう。

問題解決の過程で働かせた「見方・考え方」を鍛える「まとめ・振り返り」

- 主体的・対話的で深い学びを実現するために、問題解決の過程で働かせた「見方・考え方」を児童生徒に意識させることが必要です。そのためには、「何を学習したか」をまとめ、「どのように学習してきたか」を振り返るための「まとめ・振り返り」の場の設定が重要です。自分の言葉でまとめる時間の確保や自己評価や相互評価の活用などを通して、充実感、達成感、有能感などの学びの手応えを感じさせ、新たな学びに目を向けることができるように、単元を見通した評価計画のもと、「まとめ・振り返り」の場を設定します。



ふくしまの「家庭学習スタンダード」を有効に活用し、自己マネジメント力の育成を通して、知識・技能等の定着が図られてきています。今後さらに、次のポイントを大切に授業改善を進めましょう。

学びの連続性を意識した、授業と家庭学習の学習サイクルの確立

- 福島県の児童生徒は、家庭で計画を立てて学習をしており、主体的に家庭学習に取り組んでいます。授業と家庭学習の学習サイクルを確立することは、自己マネジメント力の育成にもつながります。教員間で共通理解を図った指導、学校間や家庭との協力及び連携体制の構築により授業と家庭学習の双方を充実させることができます。

- 〈取組例〉
- ・ 家庭学習を効果的に活用した授業
 - ・ 児童生徒の自主性を高める組織的な指導



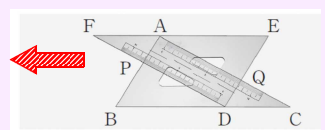
【ポイント3】 ICT機器の積極的活用

授業の場面ごとのICT活用例

- 発表場面での活用
プレゼンテーションソフトを用いて目的や意図に応じた資料を作成し、説明を補足したり、伝えたいことを強調したりして、より伝わりやすい表現に工夫することができる。
- 観察したり操作したりする場面での活用
図形ソフトを用いて動的に変化させることで、図形を構成する要素や位置関係などに着目しやすくなり、問題をより深く把握することができる。
- 意見交換場面での活用
各種ソフトにおけるチャット機能やコメント機能を用いることで、児童生徒同士あるいは児童生徒と教師の対話や助言を簡単に行うことができる。

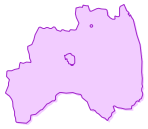


【小学校国語 問題1より】



【中学校数学 問題9より】

5 各調査の特色に応じて～「ふくしま学力調査」との整理～



本県では、「全国学力・学習状況調査」及び「ふくしま学力調査」を実施しています。各調査の特徴を整理することにより、授業改善に生かすことができます。



全国学力・学習状況調査とは？

目的

毎年4月（令和3年度は5月）に実施される、文部科学省による全国調査です。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（実施要領から抜粋）

結果の活用

相関関係等を探ることにより、教育施策及び授業改善等を支援することができます。

○ 各学校においては、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、自らの教育指導等の改善に向けて取り組むこと。（実施要領から抜粋）

⇒ 各教科の領域等における学習状況の把握が可能、その結果、授業改善に生かすことができる。

⇒ 質問紙調査による分析が可能、その結果、学習との相関関係のある項目への支援をすることができる。 など



「ふくしま学力調査」とは？

概要

国語、算数・数学の出題範囲は、調査を受ける前の学年までに学習した内容です。

- 日付 令和3年4月21日(水)
- 学年 小学校4・5・6年生／中学校1・2年生
- 項目 学力調査(小学校⇒国語、算数／中学校⇒国語、数学)、アンケート(質問紙調査)
- 視点 学習した内容がどれだけ身に付いているか、一人一人の学力がどれだけ伸びているか

特長

一人一人が「どれだけ成長できているか」が分かる調査です。

子どもの伸びる時期やスピードは様々です。しかし、一人一人確実に成長しています。「ふくしま学力調査」は、小学校4年生から中学校2年生を対象に実施することで子どもの学力の伸びを把握することができる調査です。

福島県教育委員会は、「ふくしま学力調査」を通して、一人一人の学力を確実に伸ばし、子どもたちの夢をかなえる教育を進めています。

【特長1】他の児童生徒や県・市町村の平均点との比較ではなく、現在の自分の学力のレベルを測定し、過去の自分との比較で「学力の伸び」を実感することができます。

※ 本調査の「学力」は、問題ごとに設定された難易度をもとに、「どのくらい難しい問題に正解できるか」を示すものです。

※ 令和2年度調査は中止になったため、今年度は平成31年度(令和元年度)調査からの「学力の伸び」を見ることができ

ます。なお、小学校4年生と5年生の「学力の伸び」は、令和4年度調査から見るすることができます。

【特長2】学力以外の力(根気がある、やるべきことをきちんとやる、自分に自信がある等)が、どれだけ身に付いているのかが見えるようになります。これらの力は、学力との関係が強いといわれています。

【特長3】学校や教育委員会では、【特長1】【特長2】の調査結果を分析することで、学力向上に向けた授業改善や児童生徒一人一人に応じた指導・支援の充実を図ることができます。また、学力を伸ばしている効果的な取組を明らかにし、その取組を広げていきます。

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
高	レベル12				
	レベル11				
	レベル10				
	レベル9				
	レベル8				
↑	レベル7				
	レベル6				
	レベル5				
	レベル4				
	レベル3				
	レベル2				
↓	レベル1				
低					

学力の伸び